

議事について

議事の中で、不適切な表現がありました。
内容については、以下のとおりです。

- (1) 普通の人と普通でない人がいて（議事録 P. 6 中段）
- (2) 絶対におかしい、これは何とかしないといけないと断言していた人が、LGBT がそうです（議事録 P. 7 中段）

【発言者への対応について】

10月6日に面談にて、事務局から発言者（森院長）へ、不適切な表現であったことを伝え、認識及び発言の真意について確認を行いました。

発言者からは不適切な表現になったことへの謝罪と、差別的な意味での発言ではなかったとの回答がありました。発言者が伝えなかったことは、以下のとおりです。

- (1) 「普通の人と普通でない人がいて」

「普通でない人」とは、医学的見地から治療が必要かもしれない状態である人のことを表現したものです。

- (2) 「絶対におかしい、これは何とかしないといけないと断言していた人が、LGBT がそうです」

以前、性同一性障害は、国際疾病分類の中で「精神・行動・神経発達障害」に分類され、疾病として捉えられていました。しかし、2022年以降は精神疾患でも身体疾患でもない分類となる等、性的マイノリティの人への医療的な見解も大きく変化しています。

こうしたなかで、様々な価値観や社会の状況も変化しており、差別的な意味での発言ではなく、精神科医としての立場で考えたとき、過去から現代に至っては様々な場面で変化が著しい、ということを伝えようとしたものです。

【傍聴者への対応について】

10月6日に面談にて、傍聴者2名へ発言者との面談内容を報告しました。また、不適切な表現について、市職員として、その場で発言者に真意の確認等ができなかったことについて、説明いたしました。

【議事に対する考え】

「昔は」「我々の時代の話で聞いてくださいね」等の前置きがあったとはいえ、「普通の人と普通でない人」「絶対におかしい、これは何とかしないといけないと断言していた人」等の発言は、個人の尊厳を傷つけかねない表現であると認識できたにも関わらず、議事の中で、市職員から修正を求めたり、発言の真意を確認できなかったことにつきまして、反省しております。

今後、今回の議事について改めて振り返り、教訓とするとともに、同じような場面に置かれた時には、適切な対応ができるようにいたします。